

市町村名		大宜味村					
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	大宜味村観光情報発信整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(10)-イ	
担当部署名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	島々の資源・魅力を活かし、 存在力を引き出す産業振興  Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつり実行委員会及び大宜味村PRイベント実行委員会の実施活動を支援する。						
効果発現年度	■当年度      □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施    □委託    ■補助    □負担    □その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況						
	(a) 当初予算額	14,550	5,000	7,000	10,350	12,300	
	(b) 予算現額	10,050	390	1,223	11,250	5,761	
	(c) 増減額(b-a)	▲4,500	▲4,610	▲5,777	900	▲6,539	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	10,050	390	1,223	11,250	5,761	
	B. 執行済額	6103	390	1223	5,854	2,314	
	うち交付金充当額	4882	312	978	4,683	1,851	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
執行率(%) (B/A)	60.7%	100.0%	100.0%	52.0%	40.2%		
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の事業計画に基づき補助金を交付。実績報告書の内容を精査し、事業が完了していることを確認した。</li> <li>・新型コロナウイルスが5類へ移行したことに伴い、他のイベント行事との兼ね合いを勘案して実施体制を見直したことにより、当初の見込より予算の執行率が低下した。</li> <li>・産業まつりについて当初交付金活用を予定していたが村単費へと切り替えて対応をしたため執行率が低下している。</li> </ul>						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	PRイベント開催支援	目標	( 開催支援 )	( 開催支援 )	( 開催支援 )	( 開催支援 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	産業まつり誘客イベント開催支援	目標	( 開催支援 )	( 開催支援 )	( 開催支援 )	( 開催支援 )	
実績		中止	中止	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PRイベント実施費用を支援</li> <li>①令和5年10月7日～8日 かにえ町民まつり 約18,000人。</li> <li>②令和5年10月27日～30日 西会津ふるさとまつり 約5,000人。</li> <li>③令和5年10月27日～29日 沖縄の産業まつり 約310,000人。</li> <li>④令和5年10月26日～29日 ツーリズムEXPOジャパン 約148,000人</li> <li>・産業まつり: 令和6年1月20日、21日(2日間)に開催。誘客増のために、ステージイベントでお笑い芸人や猿まわしなどを実施。イベントを行うための会場設営費を支援した。</li> </ul>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)
	各実施イベント来場者数	目標	( )	( 10,000人 )	( 11,000人 )	( 11,000人 )	( )
		実績		約14,700人	約367,000人	約481,000人	
	大宜味村産業まつり来場者数	目標	( )	( 5,000人 )	( 5,000人 )	( 5,000人 )	( )
		実績			4,600人	4,761人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>(PRイベント) PRイベントを4都市の会場で開催し、約481,000人の来場者が訪れた中で観光や特産品等のPRが実施できた。</li> <li>(産業まつり) 今年度は、会場を塩屋漁港から例年開催していた旧大宜味小学校に戻して開催したが、目標を達成することはできなかった。まつりの内容として、村と友好交流のある宮城県石巻市観光協会と漁協、秋田県湯沢市観光物産協会、福島県西会津町、愛知県蟹江町、東京都調布市観光協会を招いてテナントブースにて特産品及び物品販売を行った。</li> </ul>						

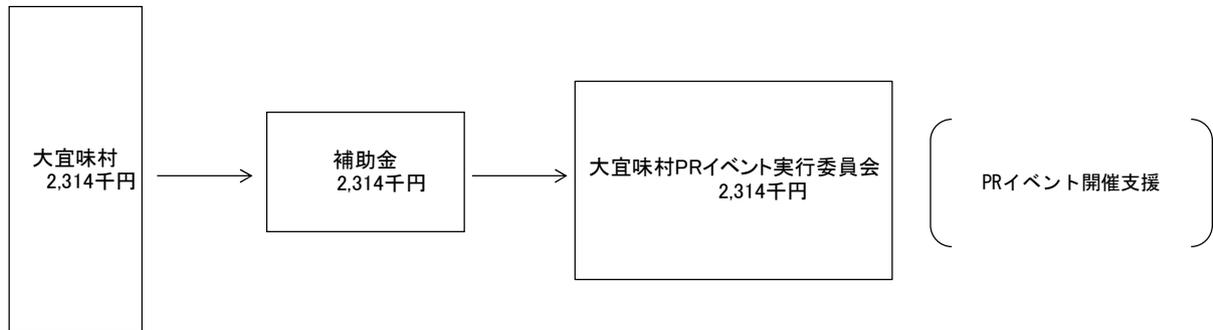
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(PRイベント) 新型コロナウイルスが5類へ移行した影響でイベント開催や参加の気運も高まり来場者数にも影響していると考えられる。またリピーターも着実に増えており、大宜味村の観光物産のPRをSNS通して発信してもらうなどの協力も得られた。しかし、各イベントとの開催重複や連続性に伴う、運営体制の人員確保が課題となっている。	(PRイベント) ・安定的なPRイベントを実施できるよう、来場者に対して、より効果的なPR方法及び運営体制の検証を継続する。 ・大宜味村の観光及び特産品を取扱う事業者との連携体制を構築し、継続的な取り組みを行う必要がある。
	(産業まつり) 昨年度は例年開催していた会場(旧大宜味小学校グラウンド、体育館)から新会場(塩屋漁港)に移して開催したことにより、出店店舗の制限や、特産品等の展示、駐車場に限られてしまったため、今年度は旧会場にもどしたところ、昨年度以上の来場があったが、天候が崩れたことにより、目標を達成することができなかった。	(産業まつり) ・広報活動や周知の更なる強化を行う。 ・前回塩屋漁港広場、今回旧大宜味小学校グラウンドでの開催となったが、場所の定着や駐車場・会場の広さアクセスの良さを考え場所を選定する必要がある。

**今後の取り組み方針**

- (PRイベント)
- ・大宜味村の魅力を県内外にPRするための観光や特産品紹介のコンテンツを強化すること等を検討し、関連する事業者等との連携も継続的に取組む。
  - ・イベント開催場所の情報を収集し、より効果的なPRを実施できるよう検討する。
- (産業まつり)
- ・周知期間を長くするためプログラムを早めに決定し、チラシ作成の発注を早い段階で行う。
  - ・老若男女が楽しめるイベントを開催する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,314	2,314	1,851	463	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は本村のPRイベント実行委員会として観光PR等を振興する役割を担っているため、妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、産業まつりへの補助金を実績から取り下げたことで、不用額が生じたが、実行委員会で費用対効果に考慮した予算措置に努めていることから、適正な規模と判断している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途についても実行委員会からの実績報告書を精査し、目的に即し必要なものであったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村
------	------

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	環境保全・美化推進事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(2)-ア
担当部署名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成28年度 ~ 令和13年度	自然環境の保全・再生・継承及び持続可能な利用
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容  
野良犬、野良猫、ハブ対策として環境保全の作業員による捕獲器の設置、回収を行い、貴重な野生生物の保護及び地域住民や観光客の安全確保を図る。  
また、猫の適正飼育の周知や、譲渡強化等を図る。

効果発現年度  
 当年度       後年度(      年度)

実施方法  
 直接実施       委託       補助       負担       その他(      )

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	5,724	7,741	9,082	9,416	10,469
		(b) 予算現額	5,724	10,504	9,082	8,631	10,728
		(c) 増減額 (b-a)	0	2,763	0	▲785	259
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	5,724	10,504	9,082	8,631	10,728
		B. 執行済額	5,576	10,182	8,347	7,760	8,288
		うち交付金充当額	4,461	8,145	6,677	6,208	6,631
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	97.4%	96.9%	91.9%	89.9%	77.3%
		予算の状況の説明	令和5年度の執行率は77.3%となった主な要因は、対象ネコの減少に伴う手術費用の縮減である。				

R5活動目標(指標)	達成状況				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
賃金作業職員(2人) ※賃金調査職員(2人) ▶※はR3年度まで	目標	( 4人 )	( 4人 )	( 2人 )	( 2人 )
	実績	4人	4人	2人	2人
各保護・捕獲器の設置 (ハブ、犬、猫)	目標	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ40台 犬3台 猫10台	ハブ40台 犬3台 猫10台
	実績	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ40台 犬3台 猫10台	ハブ40台 犬3台 猫10台
猫の譲渡の実施 マイクロチップ装着	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )
	実績	実施	実施	実施	実施
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計年度任用職員を2人配置し、ハブ罠40台、犬罠3台、猫罠10台の設置を行い、ハブ27匹の捕獲、犬1頭、猫59匹保護した。</li> <li>・観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ、ハブ捕獲器の設置し、野良犬・野良猫が多い地域へ犬・猫保護器を設置したことにより、ハブの捕獲、犬・猫の保護を実施することができた。</li> <li>・村が保護し譲渡する猫に対して、避妊・去勢等を目標どおり実施した。</li> <li>・村内譲渡ネコはすべてマイクロチップ装着し、村外への譲渡ネコについては希望者へマイクロチップ装着を行った。</li> </ul>				

R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
		①ハブ咬傷被害:0件	目標	( )	( 0件 )	( 0件 )
	実績		1件	( 0件 )	0件	
②ヤンバルクイナの生息率:33.3%以上	目標	( )	( 33.3%以上 )	( 23.08%以上 )	( 33.3%以上 )	( )
	実績		33.33%	28.20%	43.6%	
③保護した猫の譲渡:100件以上	目標	( )	( 80件以上 )	( 150件以上 )	( 100件以上 )	( )
	実績		135件	73件	59件	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハブ咬傷被害は0件で目標達成となった。</li> <li>・ヤンバルクイナ生息率については、43.6%となった。</li> <li>・ネコの譲渡件数については、愛護団体との連携及び地域住民への周知活動を行い59件となった。</li> <li>・昨年度と比較して減少しているが、捕獲対象個体の減少が大きな要因となっており、良い傾向であると考えます。</li> </ul>					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)	
取組の検証	<p>・ハブ咬傷被害の未然防止については、観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている場所へハブ捕獲器を設置し咬傷被害0件を達成しているが、継続的な注意喚起が必要であると考え。</p> <p>・ヤンバルクイナの生息率については、近年高い数値を維持しており事業効果を実感している。しかし、野良ネコの目撃情報も一定数あることから、引き続き保護及び室内飼養の徹底が必要である。</p> <p>・ネコの譲渡について、愛護団体等と連携し定期譲渡会を開催した事により、スムーズな譲渡活動が可能となった。昨年度と比較して譲渡件数が減少し、未達成となっているが、捕獲対象個体の減少が主な要因であり、良い傾向であると考え。また、不適正飼育の実態もあることから、継続した指導が必要である。</p>	<p>・ハブ咬傷被害の未然防止について、例年通り捕獲器設置を行うと共に、広報誌への定期掲載や村内放送等で注意喚起を行う。</p> <p>・ヤンバルクイナの生息率について、野良猫の数の縮減に努める。</p> <p>・ネコの譲渡に関して、村内のみならず、県外や他団体との連携を図り譲渡強化する。</p> <p>・猫の飼い主に対して定期訪問を実施し、適正飼育の徹底を促す。</p>	
	今後の取り組み方針		
	<p>・ハブ咬傷被害の未然防止について、例年通り捕獲器設置を行うと共に、広報誌への定期掲載や村内放送等で注意喚起を行う。</p> <p>・ネコの適正飼育の推進及び、野生化したネコの保護、避妊去勢を実施する。</p> <p>・ネコの譲渡に関して、譲渡会の定期開催を行うと共に、村内・村外及び県外への譲渡を強化していく。さらに、適正飼育の徹底を継続して促す。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
8,288	8,288	6,631	1,657	0

大宜味村 8,288千円	会計年度任用職員報酬 3,844千円	会計年度職員2名分
	会計年度任用職員期末手当 752千円	会計年度職員2名分
	保険料 239千円	会計年度職員2名分
	会計年度任用職員費用弁償 73千円	会計年度職員2名分
	需用費 388千円	消耗品代 軽トラック燃料代
	手数料 764千円	ネコ避妊・去勢マイクロチップ装着業務
	委託費 2,228千円	にゃんぼる・わんぼる 2,228千円

資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○任用職員は、村の規則に準じ採用した。委託業務は随意契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、対象ネコの減少に伴う手術費用の縮減があり、77.3%の執行率となったが、個体数が増加に転じないよう維持する必要があることから事業規模は適正である。</p> <p>○費目・用途については、事業実施に必要な不可欠なものであり、計画・支出等に関する書類により確認・適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村
------	------

**令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	1-③	ふるさと河川環境再生・活用整備事業	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(2)-(イ)
担当部署名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成26年度 ～ 令和9年度	自然環境の保全・再生・ 継承及び持続可能な利用
			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)

**事業内容**  
大宜味村謝名城・喜如嘉地区の魅力あるむらづくりとリンクさせた地域の活性化を図るため、河川敷の空間を環境教育の場及び観光誘客として有効活用すると共に、治水安全度の向上や河川全体の自然環境再生を視野に大川川とその周辺整備を実施するを図るため、大川川とその周辺整備を行う。

**効果発現年度**  
 当年度       後年度( 10年度)

**実施方法**  
 直接実施     委託     補助     負担     その他 ( )

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	99,151	184,013	205,735	0	63,000
	(b) 予算現額	99,151	184,013	205,735	0	48,000
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 15,000
	(d) 繰越額	0	0	0	127,988	0
	A. 計 (b+d)	99,151	184,013	205,735	127,988	48,000
	B. 執行済額	98,835	184,013	77,746	125,861	44,159
	うち交付金充当額	0	0	62,196	100,688	35,326
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)	99.7%	100.0%	37.8%	98.3%	92.0%
予算の状況の説明	当初の河川整備予定工期及び延長ともに、本年度の目標を達成する事ができたが、入札残により執行率は92%にとどまった。					

活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		護岸整備工事の実施 L=41m	目標 ( 護岸整備工事 L=200m )	( R4年度へ繰越 )	( - )
	実績	護岸整備工事 L=180m	R4年度へ繰越	-	護岸整備工事 L=49.7m
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	当初の河川整備予定工期及び延長ともに、本年度の目標を達成する事ができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)
		累計河川工事整備率 81% (2,109m/全体延長2,600m)	目標 ( )	( R4年度へ繰越 )	( - )	( 工事整備率 81% )
		実績		R4年度へ繰越	-	工事整備率 81%
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )
		実績				
進捗状況説明	当初の河川整備予定工期及び延長ともに、本年度の目標を達成する事ができた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	当初の河川整備予定工期及び延長ともに、本年度の目標を達成する事ができた。	他事業との兼ね合いを踏まえ、周辺住民への利便性に考慮した工事を検討し、事業執行に支障が出ないよう対策する。また気象状況を確認し、未然に災害を防止及び軽減できるよう対策する。
<b>今後の取り組み方針</b>		
(累計河川工事整備率) ・引き続き、観光誘客や観光教育の場としての活用を図るため、大川川の整備を実施する。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
44,159	44,159	35,326	8,833	

```

graph LR
    A[大宜味村  
44,159千円] --> B[工事請負費  
36,569千円]
    A --> C[委託料  
7,590千円]
    B --> D[有限会社 新栄建設  
36,569千円]
    C --> E[株式会社 大洋土木コンサルタント  
7,590千円]
    D --- F["( 令和5年度大川川護岸改修工事 )"]
    E --- G["( 令和5年度大川川護岸改修工事  
現場技術業務 )"]
  
```

資金の流 れ、費目 点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は指名競争入札で決定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、設計の見直し等があったが適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	大宜味村
------	------

**令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度 ~ 令和13年度	「生きる力」を育む 学校教育の充実
			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)

**事業内容**  
学力の向上を図るため、村内小中学校に学習支援員を配置する。

**効果発現年度**  当年度  後年度( 年度)

**実施方法**  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	11,175	11,878	13,045	13,775	13,934
	(b) 予算現額	11,175	11,878	13,045	13,775	11,451
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 2,483
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	11,175	11,878	13,045	13,775	11,451
	B. 執行済額	10,742	11,404	12,479	13,191	11,731
うち交付金充当額	8,593	9,123	9,983	10,553	9,384	
次年度繰越額						
執行率 (%) (B/A)		96.1%	96.0%	95.7%	95.8%	102.4%
予算の状況の説明	年度途中で支援員の欠員が発生したが、急ぎ募集を行い人員を確保し事業を実施する事ができた。欠員が発生した分については変更申請で事業費を減額している。					

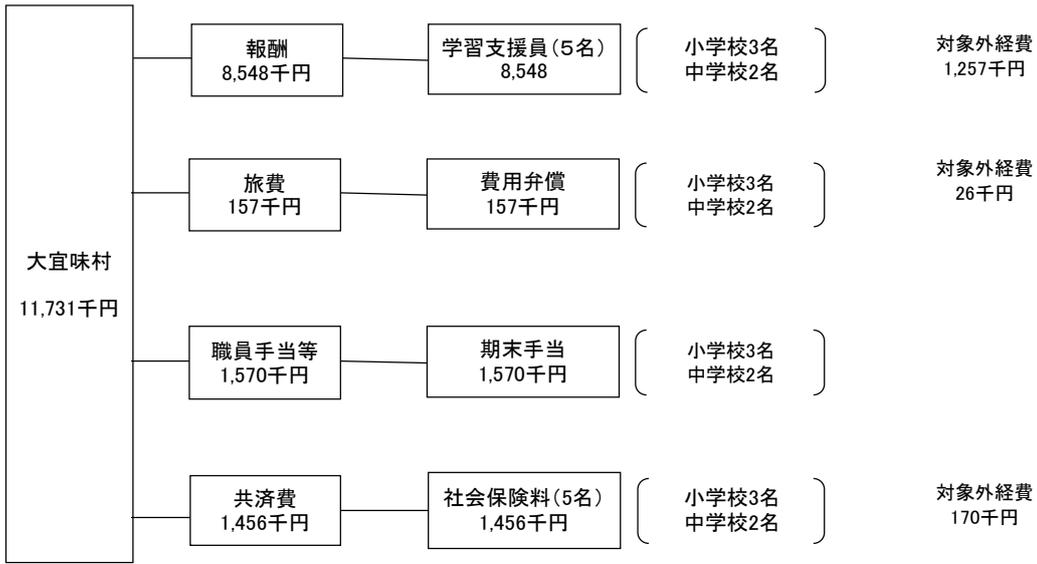
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		小学校3名配置	目標 ( 1小学校×3人 )	( 1小学校×3人 )	( 1小学校×3人 )
	実績	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人
	中学校2名配置	目標 ( 1中学校×2人 )	( 1中学校×2人 )	( 1中学校×2人 )	( 1中学校×2人 )
	実績	1中学校×2人	1中学校×2人	1中学校×2人	1中学校×2人
達成状況説明	・村内の小学校1校に3名、中学校1校に2名学習支援員を配置した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
		・小学校 令和5年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率を 2.3ポイント以上超過	目標 ( )	( 0ポイント以上 )	( 0ポイント以上 )	( 2.3ポイント以上 )	( )
		実績		2.3ポイント	5.8ポイント	2.6ポイント	
・中学校 令和5年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 -0.6ポイント以内	目標 ( )	( 2.4ポイント以上 )	( 0ポイント以上 )	( -0.6ポイント以上 )	( )		
実績		-0.6ポイント	-4.0ポイント	-7.0ポイント			
進捗状況説明	沖縄県の学力到達度調査を用いて成果目標の設定をしている。小学校の県平均正答率との差は目標を上回る2.6ポイントとなっているが、中学校においては目標を達成できていない。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においては当初予定どおり支援員3人の確保することができた。</li> <li>・中学校においては年度途中で欠員がでたりしたが、人員を確保し事業を実施する事ができた。</li> <li>・教職員不足もあり年々人員の確保が難しくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は県平均正答率2.6ポイントと支援員配置による効果が現れているので、引き続き支援員を3名配置し、行き届いた環境の維持が求められる。</li> <li>・中学校においては年度を通して支援員確保をしっかりと行い、沖縄県到達度調査においては県平均正答率の改善へ向け、支援方法の検討を行い、まずは前年度の村平均並みの水準になるよう取組んでいく必要がある。</li> <li>・人員確保については早めに次年度継続意向確認を行い、人員の確保に努めていきたい。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においては、引き続き成果目標を達成できるよう、支援員と協力して学力の定着に向けた学習支援に取り組んでいきたい。</li> <li>・中学校においては、令和5年度までの課題を踏まえた上で学習支援の改善を図り、今後の成果目標達成を見据えて、先に前年度村平均を目標に支援員と事業に取り組む。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
13,184	11,731	9,384	2,347	1,453



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模については適正な規模であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村
------	------

**令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	2-②	地域支援員配置事業	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度 ~ 令和13年度	「生きる力」を育む 学校教育の充実
			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)

**事業内容**  
学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等に対して生徒を支援する地域支援員を配置する。

**効果発現年度**  当年度  後年度( 年度)

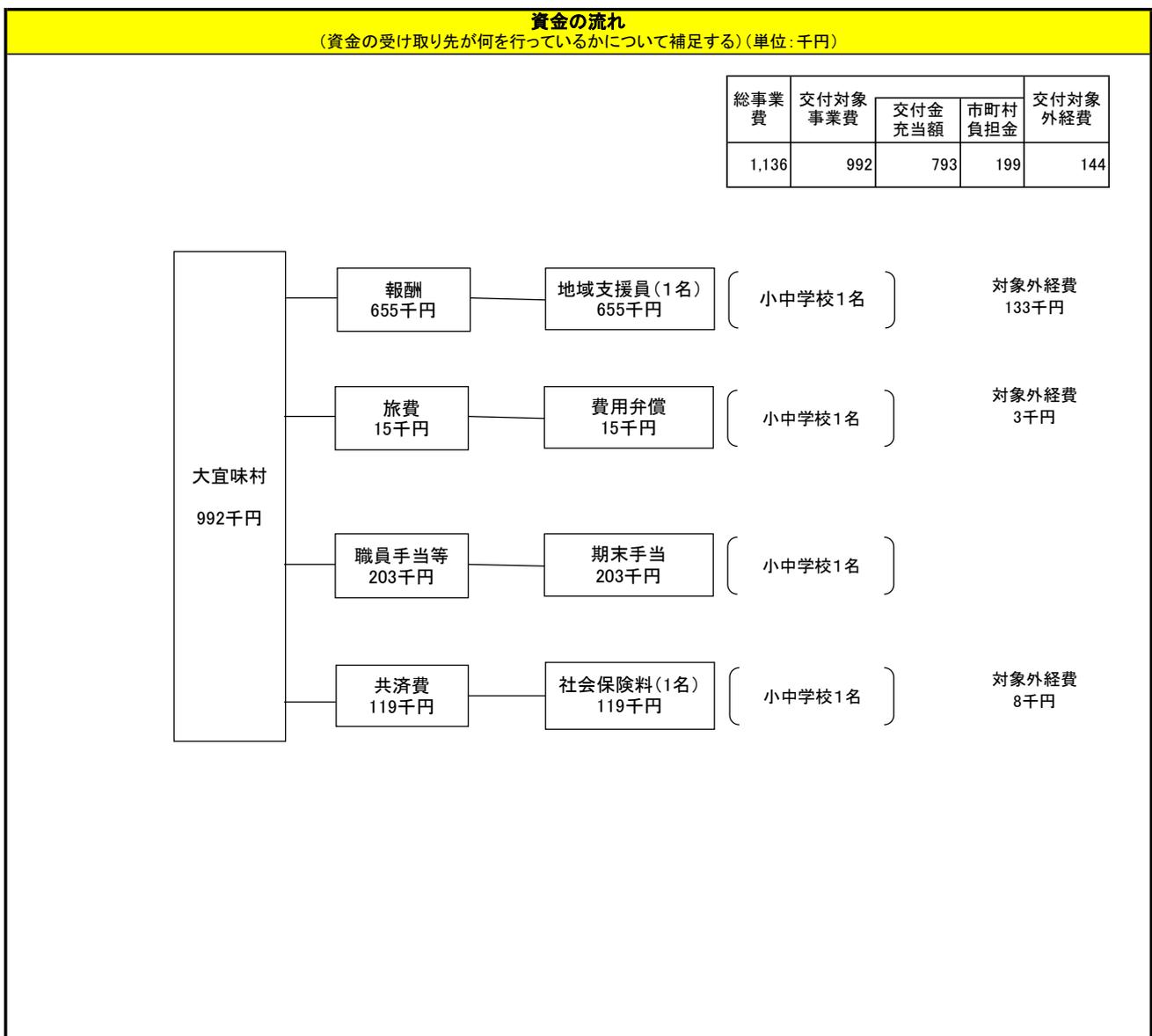
**実施方法**  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	2,235	2,359	2,613	2,755	2,816
	(b) 予算現額	2,235	2,375	2,613	2,755	922
	(c) 増減額 (b-a)	0	16	0	0	▲ 1,894
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	2,235	2,375	2,613	2,755	922
	B. 執行済額	2,158	2,375	2,542	2,722	992
	うち交付金充当額	1,726	1,900	2,033	2,178	793
	次年度繰越額					
	執行率 (%) (B/A)	96.6%	100.0%	97.3%	98.8%	107.6%
予算の状況の説明	年度途中において地域支援員が退職し、急ぎ募集を行ったが、人員確保ができず変更申請において事業費の減額を行った。					

活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		地域支援員配置数 村内小中学校1人	目標 ( 1小中学校×1人 )	( 1小中学校×1人 )	( 1小中学校×1人 )
	実績	1小中学校×1人	1小中学校×1人	1小中学校×1人	小中学校×1人
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	・年度当初より、地域支援員を小中学校に1人配置しており、不登校生徒の登校支援や登校後の校内学習・活動をサポートしていたが、年度途中で退職したことにより、事業の実施が困難となった。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
		不登校出現率が全児童数の10%以下(小学校)	目標 ( )	( 100% )	( 100% )	( 10%以下 )	( )
		全児童数 138人	実績	24%	17%	0.7%	
不登校出現率が全生徒数10%以下(中学校)	目標 ( )	( 100% )	( 100% )	( 10%以下 )	( )		
全生徒数 78人	実績	24%	17%	1.2%			
進捗状況説明	年度途中までではあるが、地域支援員の配置し、児童生徒への支援を実施することにより、小中学校それぞれの成果目標を達成することができた。 ・小学校:不登校児童1名{不登校気味の児童数7人(うち不登校児童数1人)} ・中学校:不登校生徒1名{不登校気味の生徒数3人(うち不登校生徒数1人)}						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援員だけでなく外部機関(教育委員会や民生員)と定期的に情報交換を行うことで、児童生徒を取り巻く諸問題に早急に対処できる体制づくりはできた。</li> <li>・児童生徒間のトラブルや進学時の環境の変化への戸惑いから不登校気味になる場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校渋りの児童生徒においては、保護者が課題を抱えていることから、地域支援員が家庭の巡回を行いつつ、民生員や関係機関に繋げていくことで課題解決を図る。</li> </ul>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地域支援員と教育分野(教育委員会、教育相談員)、福祉分野(民生員)との連携を図り、地域全体で児童生徒並びに保護者への支援体制を維持する。</li> <li>・環境の変化が特に大きい小中学校進学時においては重点的なケアを行い、日々の児童生徒の交友関係にも気を配り、今後もきめ細かな支援を行う。</li> </ul>		



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	大宜味村
------	------

**令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	2-③ 「ぶながやの里」地域人材育成支援事業	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ア 多様な学びの享受に 向けた環境づくり
担当部署	教育委員会 教育課	事業実施 (予定)年度 平成25年度 ~ 令和13年度	沖繩振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-3-1

**事業内容**  
各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への興味関心を培い、地域リーダーとなる人材育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。

**効果発現年度**  当年度  後年度( 年度)

**実施方法**  直接実施  委託  補助  負担  その他 ( )

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	2,523	3,121	3,359	3,519	3,561
	(b) 予算現額	2,995	2,691	3,049	3,519	3,561
	(c) 増減額 (b-a)	472	▲ 430	▲ 310	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	2,995	2,691	3,049	3,519	3,561
	B. 執行済額	2,716	2,537	2,923	2,990	3,182
	うち交付金充当額	2,172	2,029	2,338	2,392	2,545
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)	90.7%	94.3%	95.9%	85.0%	89.4%
予算の状況の説明	悪天候などの影響で、当初の事業計画・内容等に変更はあったが、状況を確認しながら執行した。					

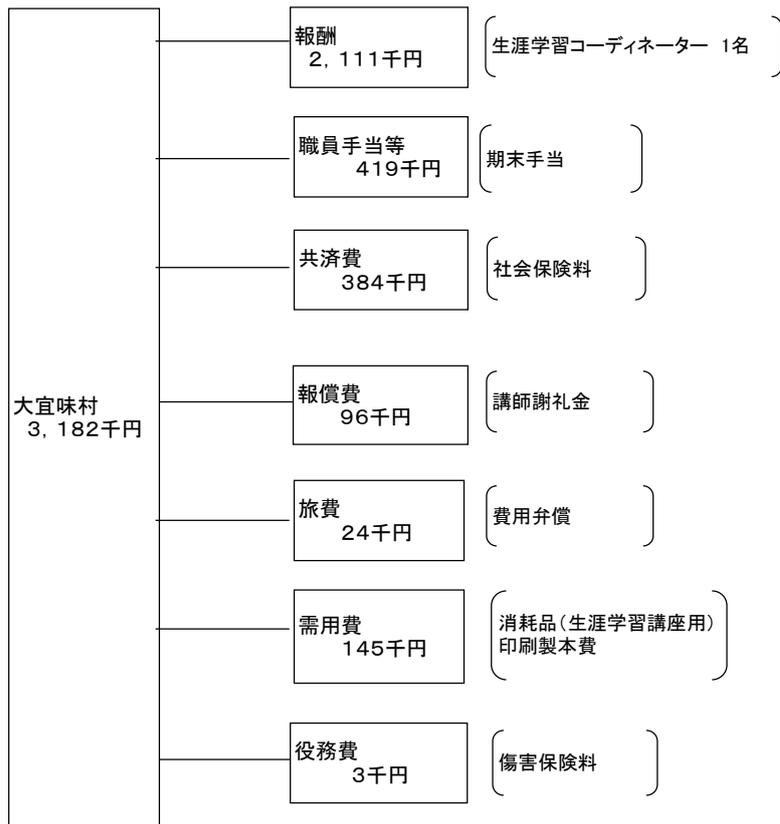
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		目標	( 6回 )	( 10回 )	( 12回 )
実績	6回	9回	12回	12回	
目標	( )	( )	( )	( )	
実績					
達成状況説明	悪天候などの影響により、当初計画していた講座の内容等に多少の変更はあったが、その状況に応じた内容で執行し、目標としていた講座回数を達成した。				

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値 (年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (年度)	
		目標	( )	( 100名 )	( 240名 )	( 240名 )	( )
		実績		138名	151名	186名	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
実績							
進捗状況説明	令和5年5月に新型コロナウイルスが感染症5類へ引き下げられたが、年度始めはコロナ感染の不安などから応募者が少ない状況や想定していた受講人数に達していない講座があり、目標としていた受講者数に達することができなかった。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	新型コロナウイルスが感染症5類に引き下がり、昨年度まで制限していた参加対象を徐々に拡げて実施したが、年度当初は感染症の不安を払拭できない不安から、応募数が伸び悩んだことが目標未達成の要因と考えられる。	引き続き感染症対策を講じつつ、住民の学習機会を確保・拡充し、地域のリーダーとなる人材の育成を図るため、引き続き講座の開催をしていく。
<b>今後の取り組み方針</b>		
本村の自然環境を活用したミニキャンプや生き物の観察・習性を学ぶ講座、施設や特産物等を使用している紙漉き・ものづくり講座などを開催することにより内容を充実させ、本村の自然や文化等について受講者の興味関心を高める取り組みを実施する。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

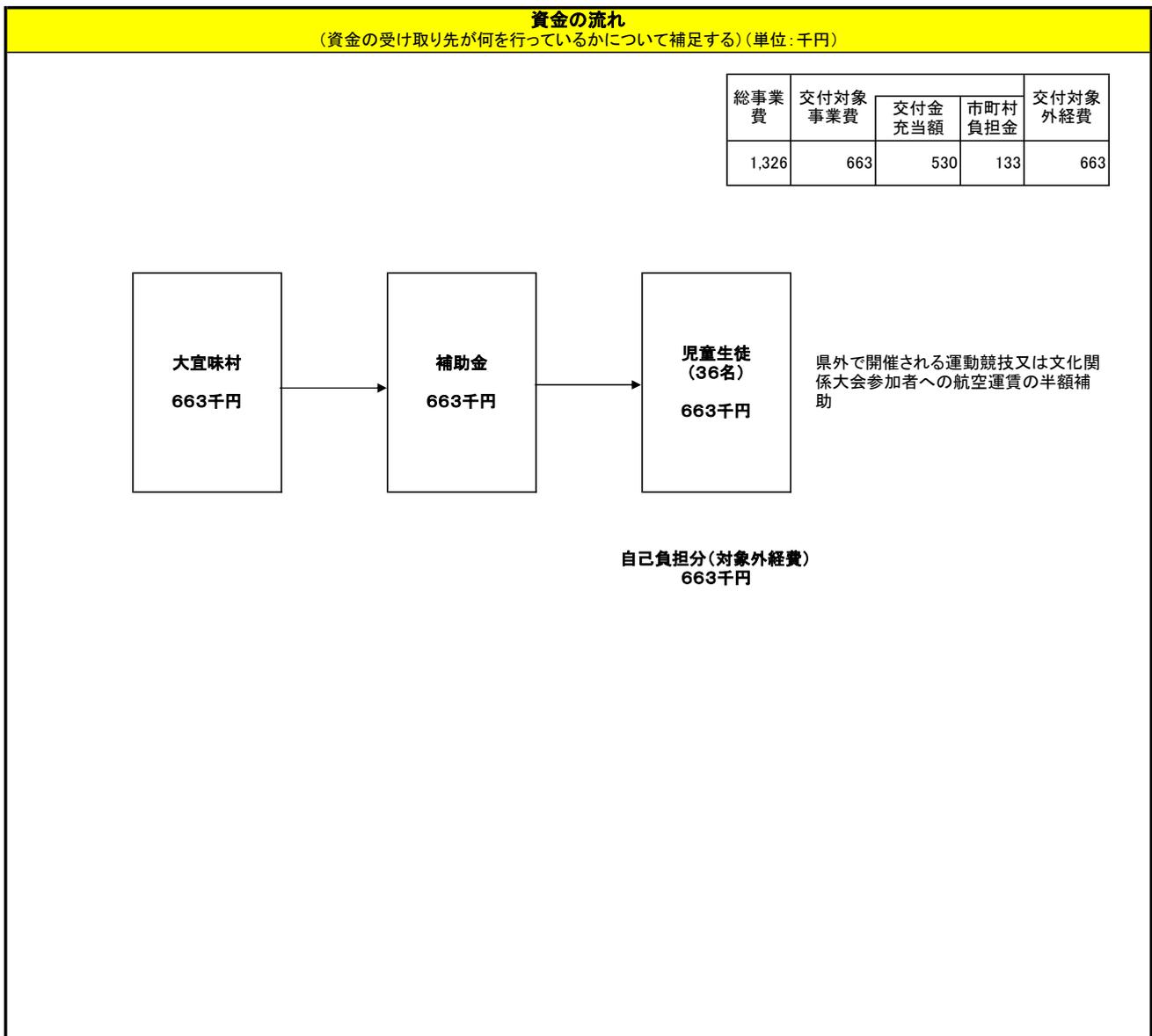
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,182	3,182	2,545	637	



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、生涯学習コーディネーターは、村の配置要項に基づき採用しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○印刷製本数量の減などがあり、少々不要が生じたものの予算規模は適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から、額の確定時に支出等に関する書類を確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	児童生徒等県外派遣支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ウ		
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成26年度 ~ 令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	「生きる力」を育む 学校教育の充実  Ⅲ-3-(2)		
事業内容	大宜味村に在住する児童・生徒(小学校・中学校・高校生)に対し、予選及び審査等の結果、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会に、代表として参加する際の派遣費用を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の状況						
	(a) 当初予算額	911	1,435	700	730	1,157	
	(b) 予算現額	494	503	411	730	1,157	
	(c) 増減額(b-a)	▲417	▲932	▲289	0	0	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	494	503	411	730	1,157	
	B. 執行済額	326	71	340	359	663	
	うち交付金充当額	261	57	272	287	530	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
執行率(%) (B/A)	66.0%	14.1%	82.7%	49.2%	57.3%		
予算の状況の説明	・予算については活用見込みがあったため確保していたが、県大会での敗退や、台風の影響で大会への参加中止があり不用額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)	達成状況					
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	児童生徒への県外派遣支援	目標 ( 派遣費の一部を助成 )	( 派遣費の一部を助成 )	( 派遣費の一部を助成 )	( 派遣費の一部を助成 )		
	実績	6 名	17 名	36 名	36 名		
達成状況説明	①令和5年度全九州高等学校体育大会 第76回全九州高等学校ソフトテニス競技大会 ②朝倉市長杯第16回学童軟式野球大会 ③令和5年度全国高等学校体育大会ソフトテニス競技大会 令和5年度全日本高等学校ソフトテニス選手権大会 ④第40回全日本小学生ソフトテニス選手権大会 (台風の影響により不参加) ⑤第54回九州中学校ソフトテニス競技大会 (台風の影響により不参加) ⑥第8回全日本中学女子軟式野球大会(SPTーナメント) ⑦第8回全日本中学女子軟式野球大会(SPTーナメント) ⑧第17回西日本小学生ソフトテニス選手権大会 ⑨第28回九州小学生ソフトテニス選手権大会 ⑩第38回九州ジュニア選抜インドアソフトテニス大会						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)	基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(年度)	
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が県内ではできない経験をする事ができたとの回答割合が80パーセント以上	目標	(      )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(      )
		実績	/	100%	100%	100%	/
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
実績		/				/	
進捗状況説明	令和5年度に実施した保護者へのアンケートでは、「県内ではできない経験をする事ができたのか」の設問について、「できた」との回答が100パーセントであり、目標を達成することができている。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外派遣を実施することで、すべての保護者が「児童生徒が県外ではできない経験をするのができた」と回答しており、本事業の成果が表れている。</li> <li>・派遣した児童生徒の活動報告から満足度が高いことが窺われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒や保護者の振り返りを深めるため、アンケートにより本事業の在り方について検証する。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>・アンケートによって、児童生徒がどのような経験ができたかを具体的に把握することに努め、年度初めに行う村内の小中高校への派遣事業の周知や、村教育委員会発刊の広報誌により全世帯への周知を行い、県外での大会派遣を引き続き支援していく。</p>		



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支出先の選定は、交付要綱に基づいて実施している。</li> <li>○予算規模については、台風の影響により不用額が生じたが、予定していた事業が全て実施されていた場合は適正な規模であったと考えている。</li> <li>○受益者との負担関係は対象費用の5割で妥当としている。</li> <li>○費目・使途は事業目的に即した必要なものと考えている。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	